



# 地域の現状認識と 10年後の想定

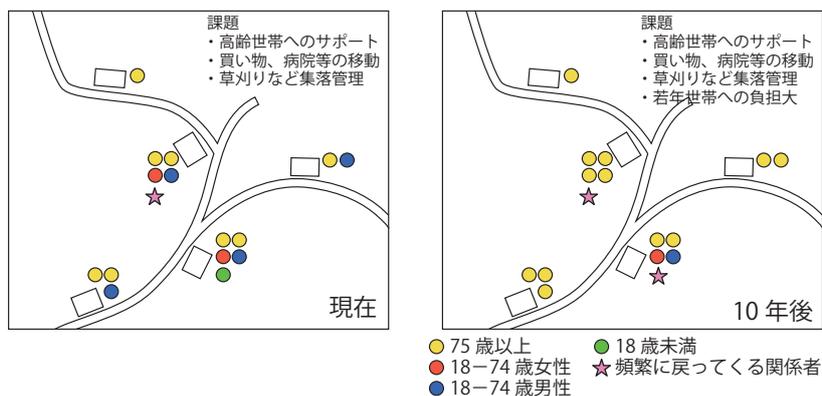
## 目的

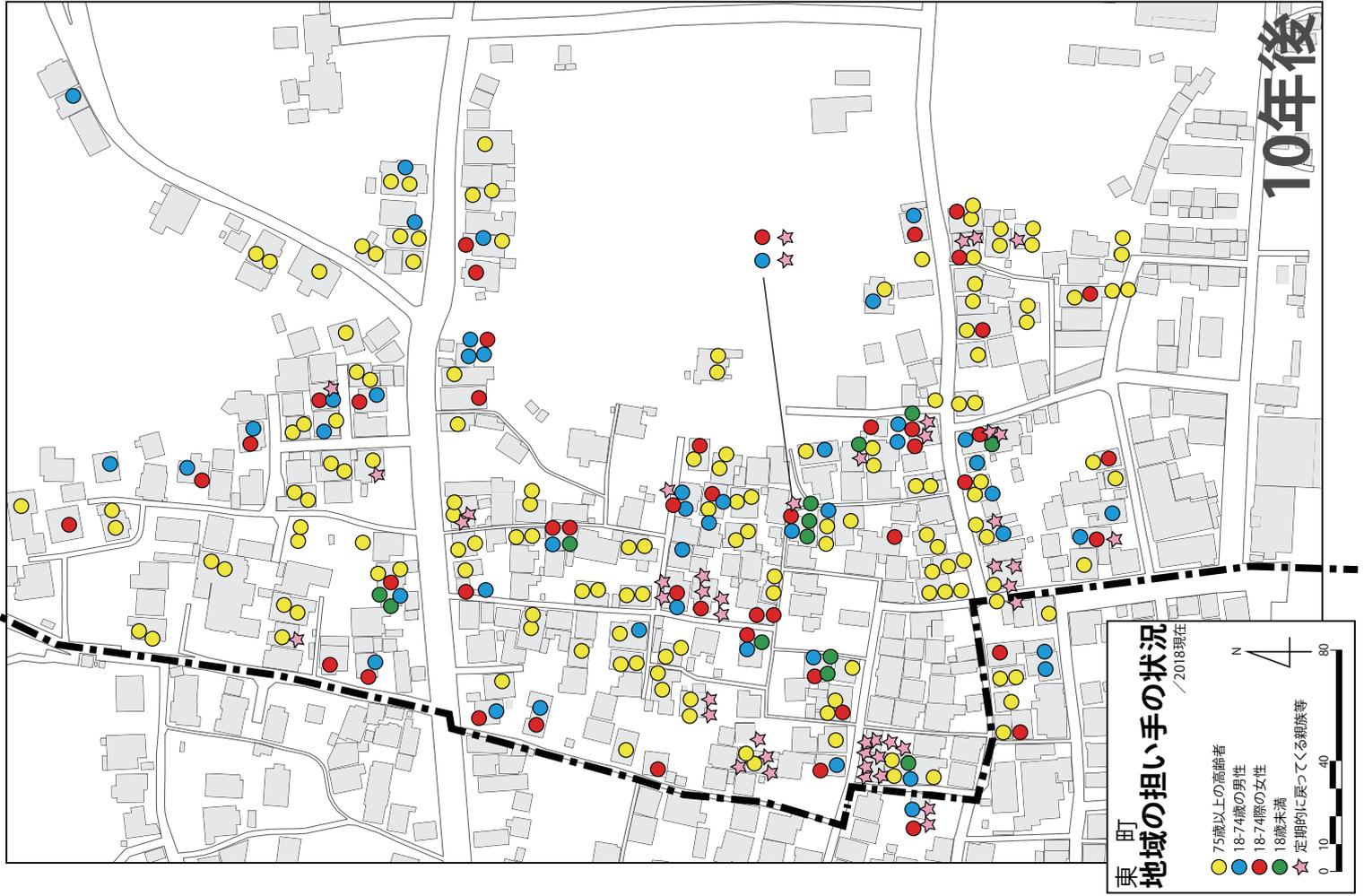
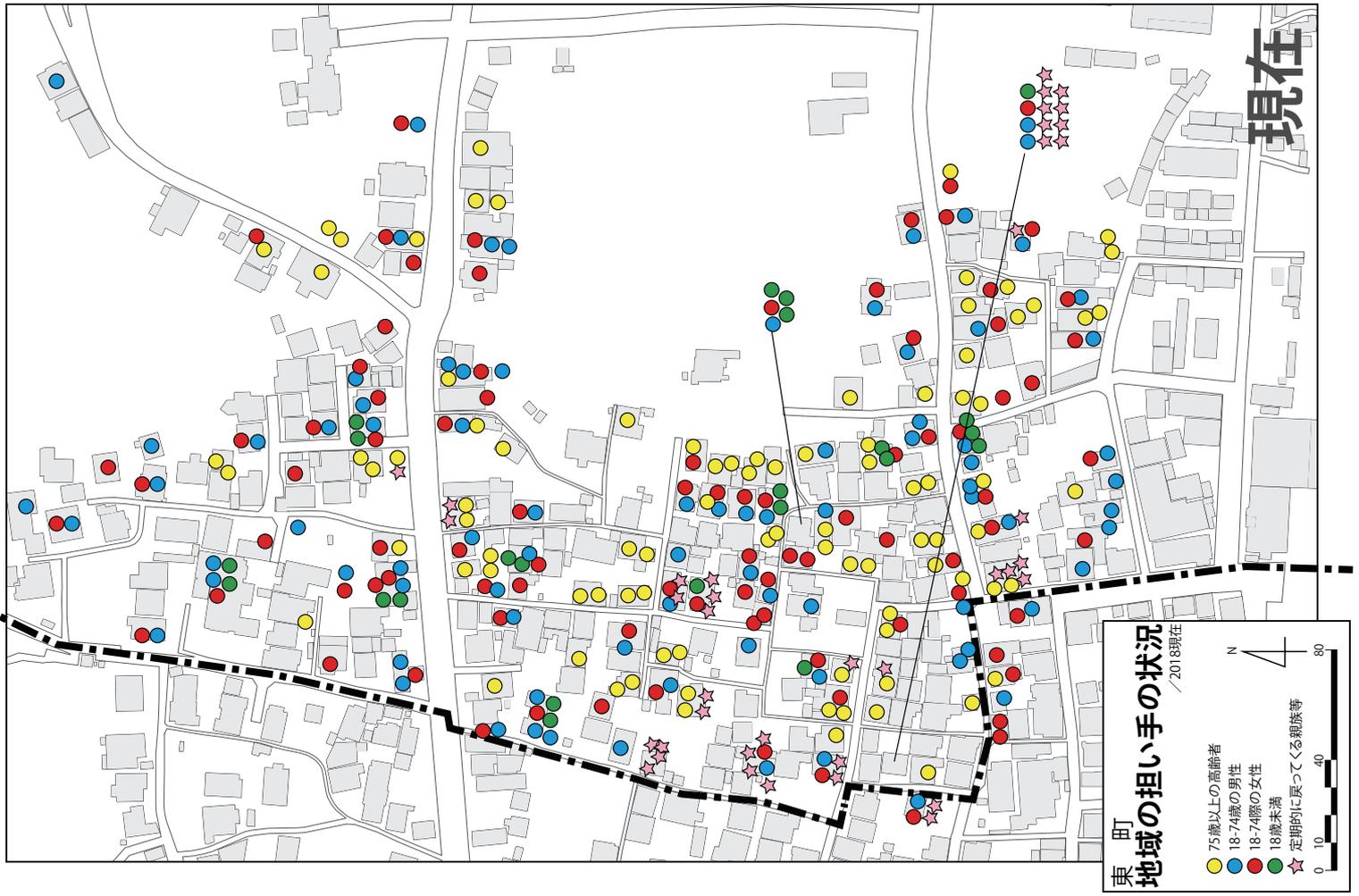
地区の現在、未来を“見える化”する。高齢化の進む神野地区の現状を地図上にプロットし、10年後の状況から想定される課題を具体的にイメージする。

現在と10年後の状況を比較することで、今後厳しくなる集落状況を理解し、今後のWSで「何が出来るか？」を検討する際の基礎情報とする。

## 進め方

1. 各地区で各家にどのような人がいるかを地図上にプロットしていく
  - ・ 75歳以上（引退世代）：黄色丸
  - ・ 18-75歳（現役世代）：女性は赤丸、男性は青丸
  - ・ 18歳未満（これから世代）：緑丸
  - ・ 頻繁に戻ってくる関係者：ピンク星
2. 現在の課題を列挙する
  - ・ 集落としての課題（集落の担い手の状況等）
  - ・ 高齢世帯がかかっている課題（自治の上での課題）
3. 同様に10年が経過したことを想定してプロットする
  - ・ 出て行く予定、戻ってくる予定も想定してプロットする
  - ・ 上で挙げた課題がその後、どうなっているのか記述する
4. (発表)
  - ・ 発表については、時間切れのために行なわなかった





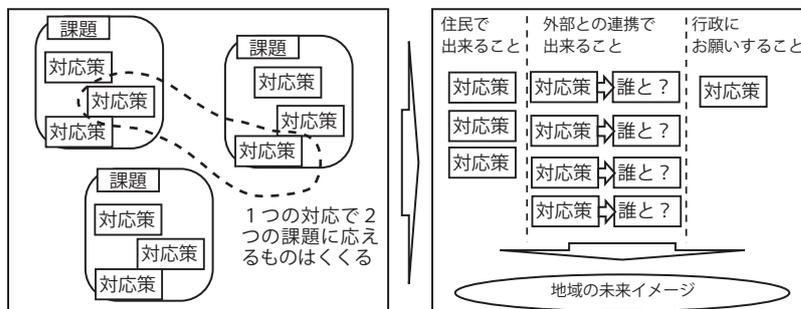
# 課題対応策と実施主体の整理

## 目的

地域の“見える化”された10年後の課題に対して、この10年の間でやるべきこと、しておくべきことを整理する。すべてやる、という前提で準備すると難しいため、とにかく沢山アイデアを出した上で、次回以降で実施主体の仕分けや優先順位を決め、具体的な行動方を検討する。

## 進め方

1. 前回 W.S. の成果を振り返る
  - ・各地区で現在状況の確認
  - ・10年後の世代状況の確認
2. 10年後の状況で想定される地域課題の検討
  - ・現在は問題ではないが、10年後の状況を見据えると課題となるであろうことの検討
  - ・これからの社会環境の変化によって課題となるであろうことの検討
3. 現在の課題、10年後の課題に対してやるべきこと
  - ・課題に対して出来ることをたくさん上げる
  - ・話し合いの中で、新たに想定される課題が出た場合は、それも加える





## 活動主体の設定と「イチオシ」の確認

### 目的

前回 WS で出された対応策について、その実施主体を「住民でできること」「外部との連携でできること」「行政に依頼すること」で整理し、その上ですぐにでも始められるアイデアについては「イチオシ」としてマークする。

様々な活動アイデアを「いつか出来る／いつかやりたいシート」にまとめ、今後の活動検討の際の資料とする。

### 進め方

1. 前回 W.S. の成果を振り返る
  - ・地域の課題認識と対応策の振り返り
  - ・対応策それぞれの SHOW 会
2. 対応策の実施主体を振り分ける
  - ・住民でできること
  - ・外部との連携によって出来ること
  - ・行政に頼むしか無いこと
3. 振り分けた活動を「いつか出来る／いつかやりたいシート」に整理する
  - ・時間がかかる活動⇔すぐに出来る活動
  - ・小さな単位でできる活動⇔各所との連携が必要な活動



# いつか出来る／いつかやりたいシート

